

このニュースを地域民報への転載や各支部への配布など、積極的に活用してください。

さっぽろ
市議団ニュース

< 3定・決算特別委員会 >

2020年10月17日

No. 228

日本共産党札幌市議団 事務局

tel 211-3221 / fax 218-5124

ヒグマの市街地侵入抑制対策を、“体制”「ご指摘の通り」

千葉なおこ議員が質問

日本共産党の千葉なおこ議員は12日、昨年に続いて、決算特別委員会でヒグマとの共生を目指し侵入抑制策と職員体制の強化について質問しました。

千葉議員は、本市が業務委託しているエンヴィジョン環境保全事務所の「昨年のヒグマ出没件数196件のうち44件は果樹が関係」との報告を紹介し、自らも3回参加した環境市民団体主催の「クマの侵入防止ボランティア」による伐採活動と今後の計画について質問。柴田環境管理担当部長は、「果実にヒグマが一度餌付くと追い払い等が困難」「伐採は侵入抑制に重要」「放棄果樹を調査し、所有者に適切な管理を求めつつ、緊急性が高い場合はボランティア団体等の協力のもと、今年度5回の活動で100本ほどを伐採」と答弁。また、「出没が多い南区中心に放棄果樹を調査。藤野、簾舞などで20か所約600本を確認、今後所有者側との調整やボランティア団体との計画的に進める」と答えました。

千葉議員が、エンヴィジョンの研究員が「安全面の確保が重要」「伐採作業ではチェーンソー等の機械が不可欠」「すべてボランティア依存ではなく、適切な技術を有する人に依頼すべき」と指摘していることを示し、市の役割について質問しました。柴田部長は、「今年度は技術者の方にご参加いただき、安全教育と手順の確認を行いながら対策を進めた」「今後も団体等と事前の打ち合わせを十分行い技術者の確保とともに、伐採と枝を裁断する日を分けるなど余裕を持った作業とする」と答えました。

千葉議員が「電気柵が侵入抑制策に有効」と設置を求めたことに、柴田部長が、「侵入経路が広大であり設置や維持管理の面で難しい」と答弁。千葉議員は、羅臼町の電気柵設置期間中にクマの目撃が減少した検証報告を紹介し、重ねて設置を求めました。

千葉議員は、わずか「4名の職員体制」で、「一日に5~6回出動することもある」と聞いているとして、「ヒグマの活動期には体制強化が必要」と求め、柴田部長は「委員ご指摘の通り」「業務の見直しの他、適切な体制構築について引き続き検討」とすると答えました。

感染の不安と大幅減収——介護事業所・従事者に支援を

吉岡弘子議員が質問

日本共産党吉岡ひろ子議員は14日、決算特別委員会で介護事業所等への支援について質問しました。

吉岡議員が、「新型コロナのもと、介護従事者不足、利用者の減少に加え感染防止対策などが新たな負担になっており、今年1月から9月までの倒産件数は、昨年同期と比べ10.5%増94件と2000年以降最多」として、札幌市内の事業所の実態を質しました。

前高齢保健福祉部長は、「4~5月はサービスの種別によって介護給付費の減少が見られたが、6月からは回復傾向が見られる」と答弁。吉岡議員は、「回復したというが、これは厚労省が6月、経営的打撃が大きい通所系と短期入所系を対象に、本来の介護報酬より2段階上となる報酬区分の算定を認める特例措置を講じたためではないか」と指摘し、もともとギリギリの経営状態だった事業所にとって本来の回復とは言えず、2段階上の利用料になりサービス回数を減らす人が生まれている」と告発しました。

吉岡議員は、コロナ禍のもとで「通常、通所介護・デイサービスの送迎は8人乗りの車にスタッフ2人と利用者6人が乗るが、今はスタッフ2人に利用者3人に制限し、ガソリン代が倍になるなど経費も膨らむ。半日の利用だとさらに事業所負担が増える」と実態をのべました。また、「ヘルパーは3密が避けられないなか、1日20人以上の入浴介助を交代しながら行い、利用者が楽しみにしている将棋、オセロ、麻雀はメンバーが交代するたびに1つひとつ駒を消毒するなど、感染への不安を抱えながら懸命に介護にあたっている」と訴え、介護事業所や従事者への支援を求めました。

前部長は、「今後、国からのマスクや手袋を配布予定」「感染症対策の人員費、衛生用品購入のかかり

増し経費や長期間サービス利用を休止していた方の利用再開支援を過去にさかのぼって事業所に補助金を交付している」とのべるだけでした。